

科目名	設備システム論	英語科目名	Building Equipment Systems
開講年度・学期	平成26年度・後期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻建築学コース2年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位(15+30)h
担当教員	佐藤篤史	居室(もしくは所属)	建築学科棟3階
電話	0285-20-2833	E-mail	a-sato@oyama-ct.ac.jp
授業の到達目標	授業到達目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標(JABEE)	JABEE 基準
空調、給排水・衛生、電気・通信、防災など各種建築設備のそれぞれの基本技術を理解した上で、設備をシステムとしてとらえ、俯瞰的な視点から建築設備を計画できること。		①	D b
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
も関連レポートおよびゼミナールのプレゼンテーションで60%以上の評価により達成とする。			
評価方法			
原則として次の2項目の加重平均により評価する。			
1. ゼミナール形式授業での意見発表等(自主的な考えや意見発言など)(50%)			
2. ホームワーク(問題や課題の提出状況と回答内容)(50%)			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目	自学自習時間	
1. 設備システム概論・設備学の基礎	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
2. 地球環境問題・都市環境問題	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
3. 省エネルギー法の意義と意味	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
4. 建築と設備の融合化	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
5. 環境・省エネルギー計画	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
6. 電気設備計画	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
7. 設備見学会	同解説	4	
8. 中間レポート	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
9. 衛生設備計画	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
10. 空調設備計画Ⅰ	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
11. 空調設備計画Ⅱ	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
12. 管理・総合建築設備計画	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
13. 医療・福祉施設の設備計画	事前に建築計画的見地からのUDを調べておく。その上で環境的見地と比較。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
14. 寒冷地、展示・収蔵、美術館など、特殊な地域、建築の設備	配付資料をもとに、労働環境の快適条件を把握しておく。復習は理解度を見て随時課題を出題。	4	
15. 解説、総論	理解が不足している項目を各自復習する。	4	
			自学自習時間合計 60
キーワード	省エネルギー基準、LCCO2、CASBEE、PAL、CEC		
教科書	伊藤真人「建築家のための建築環境デザイン」オーム社		
参考書	井上宇一監修「建築設備」市谷出版 建築設備システムデザイン編集委員会編「建築設備システムデザイン」理工図書		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	環境デザイン論		
現学年の関連科目	環境技術		
次年度以降の関連科目	-		
連絡事項			
環境デザインの考え方は幅が広いが、本講義では特に「人間-環境系」の内容を取り扱っている。その他集団行動や心理等様々な項目を加えて積極的に学んでほしい。			
シラバス作成年月日	平成26年2月19日		